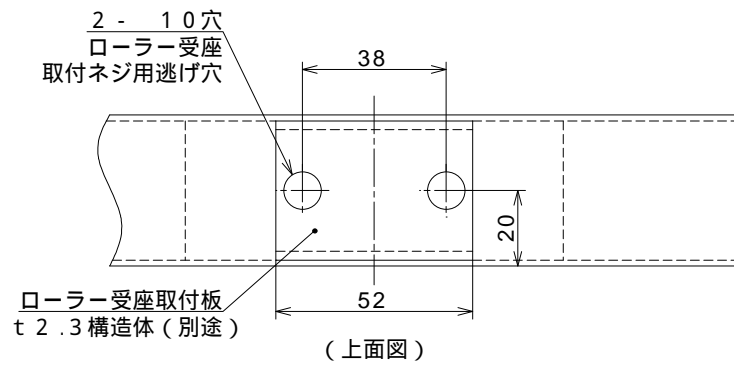


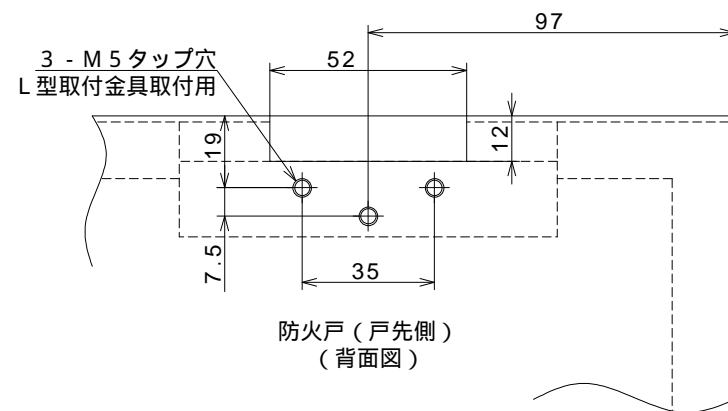
戸袋上枠・防火戸切欠き図



本体取付用切欠き穴



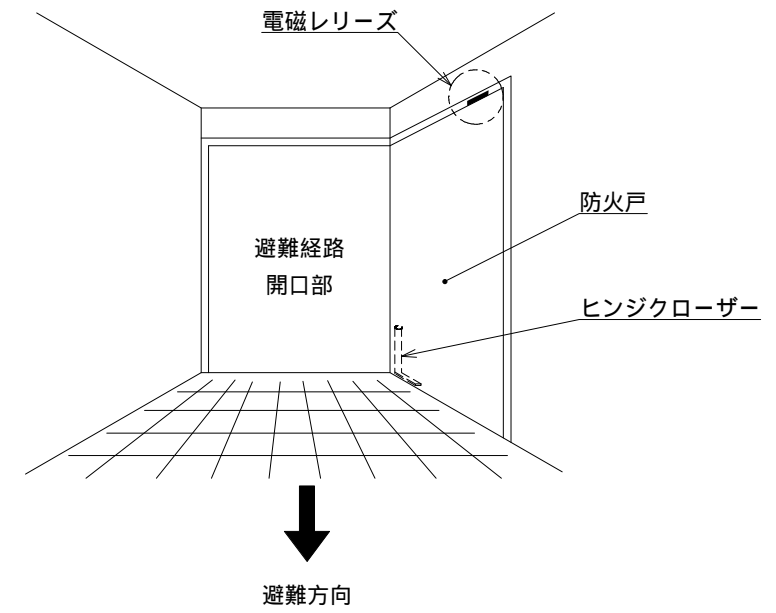
(上面図)



防火戸 (戸先側)
(背面図)

ローラー受座取付用切欠き穴

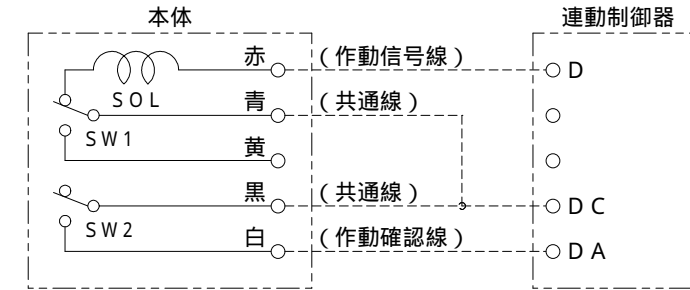
取付概要図



結線図

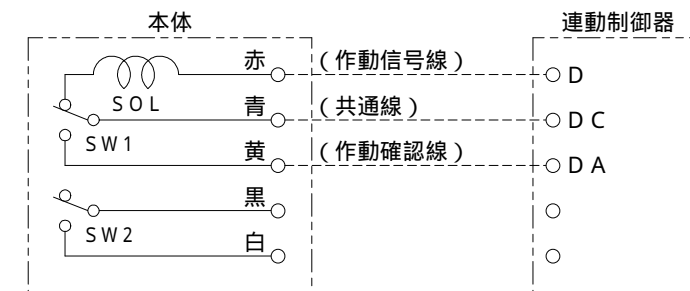
本体のリード線に極性 (+, -) はありません。

(1) 通常の結線方法 (電気作動前の状態を表示しています。)



手動解除時も作動確認表示を出力する回路です。

(2) 手動解除時に作動確認表示を出力しない場合の結線方法 (電気作動前の状態を表示しています。)



黄色線 (作動確認線) は、電気作動時に作動確認表示を出力し、手動解除時は作動確認表示を出力しない回路です。

N-64D型電磁リリース 取付要領図 2

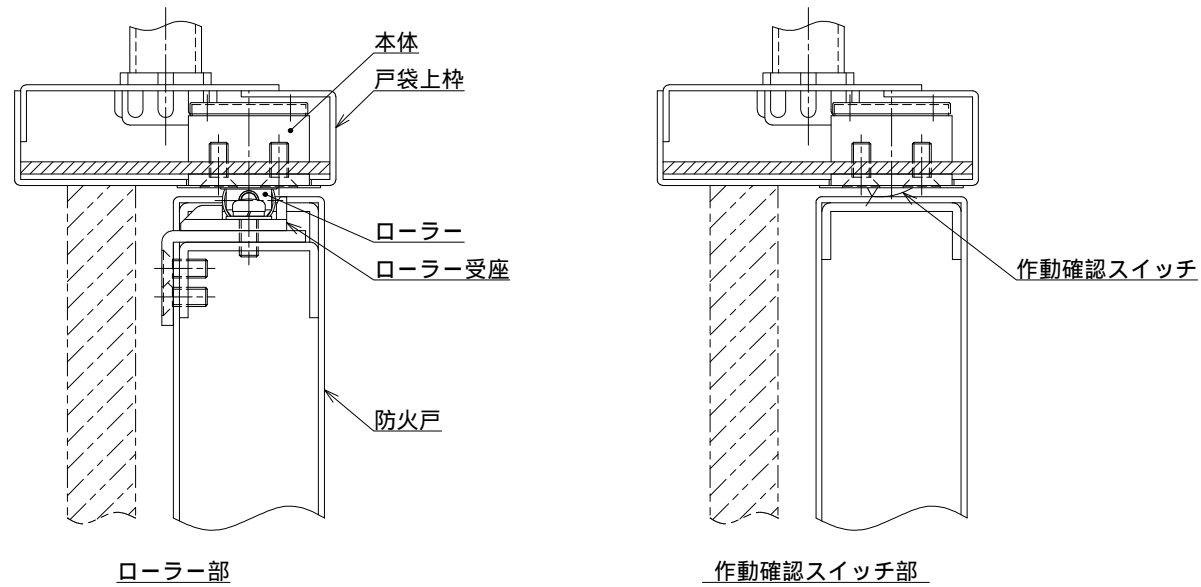
尺度	1/2	承認	三枝	検図	清水	設計	市川
			2012.06.08		2012.06.08		2012.06.08

ニッケイ株式会社 図番 AR-31606-a

作動説明図

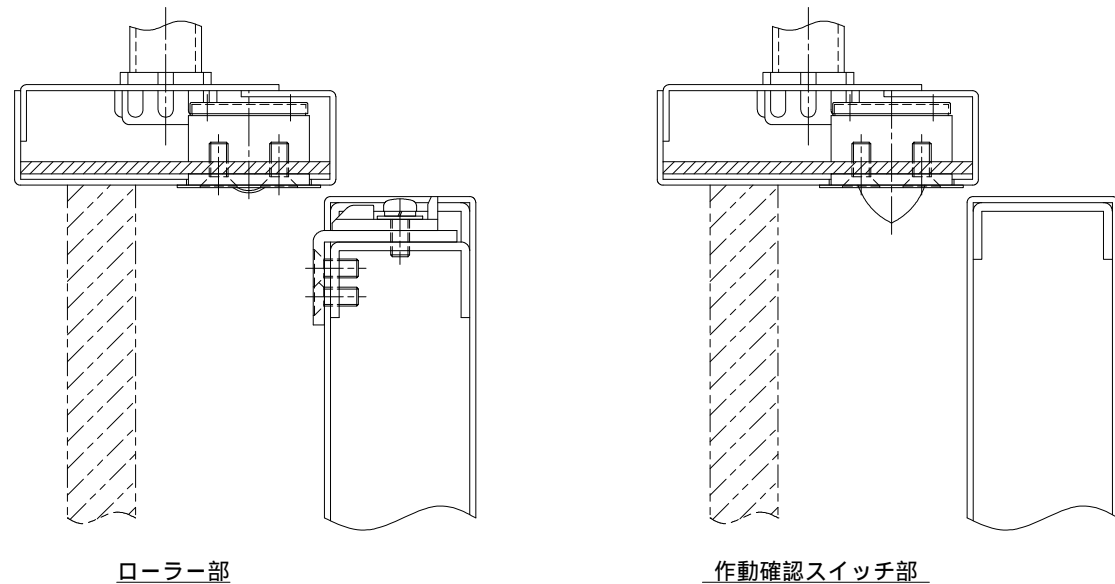
1. 戸袋収納状態（本体作動前）

戸袋上枠に取り付けた本体のローラーと、防火戸に取り付けたローラー受座が保持し、戸袋に収められた防火戸を開放保持（ストップ）しています。作動確認スイッチは防火戸に押されて本体内部に入り込み、内蔵しているスイッチがOFF状態になるため、作動確認表示は出力しません。



2. 戸袋から解放された状態（本体作動後）

火災の際、熱または煙感知器が感知し、連動制御器からの電気作動信号によりローラーが本体内部に収納され、ローラー受座との保持が外れて防火戸の開放保持（ストップ）が解除されます。解放された防火戸は、ヒンジクローザーの閉扉力で閉鎖を始めます。また、防火戸の開放保持（ストップ）を手動で解除する場合は、防火戸を開放保持（ストップ）している以上の力で戸袋より引き出すことで、本体のローラーとローラー受座との保持が外れて開放保持（ストップ）が解除され閉鎖を始めます。作動確認スイッチは防火戸が戸袋より解放されることで本体内部より突き出て、内蔵しているスイッチがON状態になるため、作動確認表示を出力します。



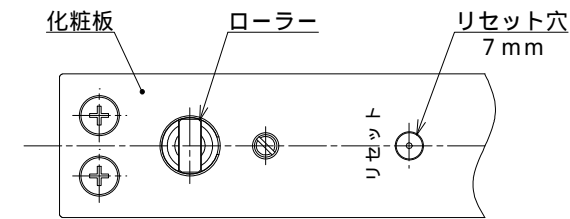
本体の操作方法について

防火戸の開放保持（ストップ）解除方法（防火戸作動状態）

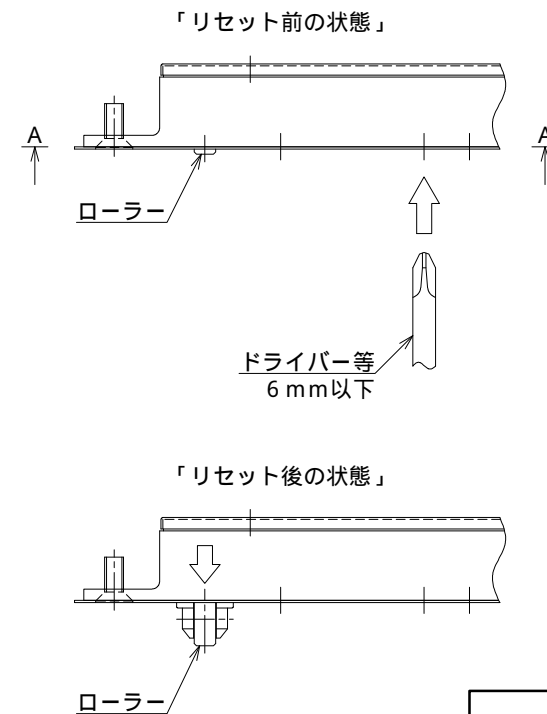
火災等の非常時や定期点検時に連動制御器からの電気作動信号により、本体が作動して防火戸の開放保持（ストップ）を解除します。また、手動で開放保持（ストップ）を解除する場合は、防火戸を開放保持（ストップ）している以上の力で防火戸を戸袋より引き出すことで解除できます。詳細は『作動説明図』をご参照ください。

防火戸の開放保持（ストップ）方法（防火戸復帰状態）

電気作動信号による避難経路開口部の閉鎖完了状態から防火戸を開放保持（ストップ）する際は、本体のリセット操作を行ってください。本体のリセット穴に 6 mm以下のドライバー等の工具を差し込み、「カチッ」と音がするまでゆっくりと垂直に押し上げてください。「カチッ」と音がしたら、本体からローラーが突き出た状態になり、リセット操作が完了します。その状態で、防火戸を戸袋に収納することにより開放保持（ストップ）が完了します。なお、本体のリセット操作を行わずに防火戸を戸袋に収納しても開放保持（ストップ）することはできません。また、連動制御器からの電気作動信号を受信している間は、本体のリセット操作をすることはできません。手動解除による避難経路開口部の閉鎖完了状態から防火戸を開放保持（ストップ）する際は、本体のリセット操作を行う必要はなく、防火戸を戸袋に収納することにより開放保持（ストップ）が完了します。



A - A 矢視図



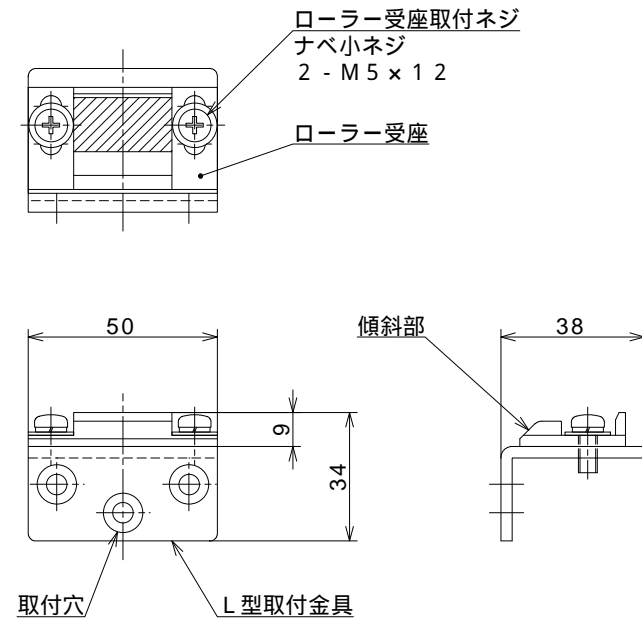
N-64D型電磁リリース 取付要領図 3

尺度	1/2	承認	三枝	検図	清水	設計	市川
			2012.06.11		2012.06.11		2012.06.11

ニッケイ株式会社 図番 AR-31607-A

ローラー受座・L型取付金具取付図

ローラー受座をL型取付金具に取り付ける際は、ローラー受座の傾斜部をL型取付金具の取付穴側に向けて取り付けてください。

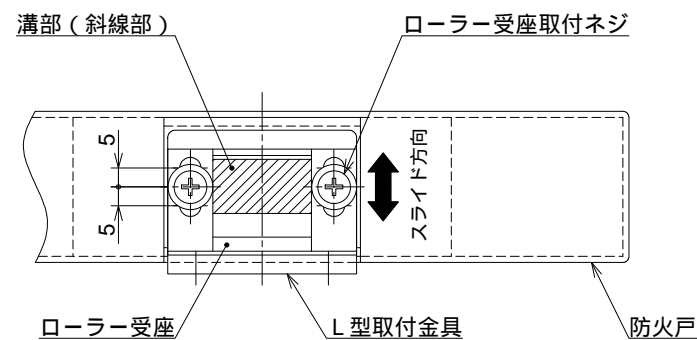


ローラー受座取付位置調整方法

本体の保持力を調整しても防火戸を開放保持（ストップ）できない場合や保持力が弱い場合は、ローラー受座取付位置の調整を行ってください。

1 ローラー受座取付位置調整方法

- 1) 防火戸からL型取付金具を取り外して、ローラー受座取付ネジを緩め、ローラー受座を矢印方向にスライドさせて、本体のローラーがローラー受座の溝部（斜線部）に収まるようにローラー受座の取付位置を調整してください。
- 2) ローラー受座の取付位置を調整した後は、必ず防火戸を数回開閉させて確実に開放保持（ストップ）すること及び、閉鎖することを確認してください。

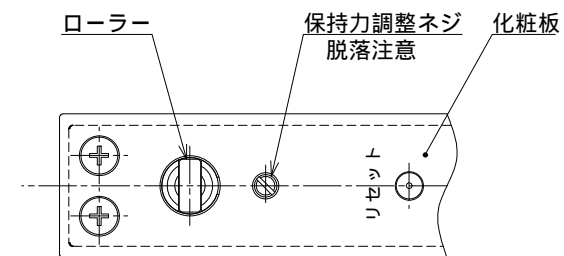
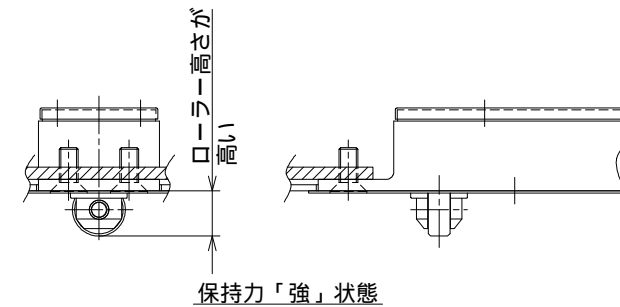
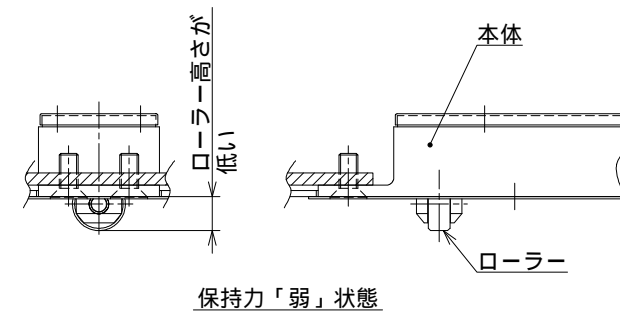


保持力調整方法

工場出荷時の本体の保持力は約200Nに設定されていますが、防火戸が開放保持（ストップ）しない場合や、手動にて防火戸の開放保持（ストップ）を解除できない場合に保持力の調整を行ってください。保持力調整後は、必ず手動による閉鎖確認を行ってください。

2 保持力調整方法

- 1) 保持力は本体のローラー高さにより変わりますので、調整の際には手回しマイナスドライバーを使用し、保持力調整ネジを1/4または1/8回転づつ回して調整をしてください。
右（時計方向に回す）に回すとローラーが本体内部に入り込み、ローラー高さが低くなり、保持力が弱くなります。保持力調整ネジを右に回し続けて止まった所が最小になりますが、本体のリセット操作ができないため、そのまま使用せずに必ず約1回転（反時計方向に回す）戻してから使用してください。なお、保持力が弱いと少しの衝撃等で防火戸の開放保持（ストップ）が外れることがあります。左（反時計方向に回す）に回すとローラーが本体内部より出て、ローラー高さが高くなり、保持力が強くなります。ただし、保持力調整ネジが化粧板面よりローラー受座側に出ないようにしてください。保持力調整ネジが出ている状態で防火戸を閉鎖した場合、ローラー受座取付ネジに当たって保持力調整ネジが破損し、保持力調整ができなくなる場合があります。なお、左に回し続けた場合は、保持力調整ネジが脱落しますので紛失しないように注意してください。また、保持力が強すぎると防火戸の開放保持（ストップ）を手動で解除できないことがあります。
- 2) 保持力調整後は必ず防火戸を数回開閉させて、確実に開放保持（ストップ）すること及び、閉鎖することを確認してください。



N-64D型電磁リリース 取付要領図4

尺度	1/2	承認	三枝	検図	清水	設計	市川
			2012.06.11		2012.06.11		2012.06.11

ニッケイ株式会社 図番 AR-31608-a

施工上の注意

警告 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

マークは『禁止』、マークは『強制』、マークは『注意』を表しています。

1. 本体の保持力は、50～200Nまで調整可能ですが、防火戸を開放保持（ストップ）する際の本体の保持力調整については、昭和48年建設省告示第2563号『防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件』、第1-1 面積が3平方メートル以内の常時閉鎖状態を保持する構造の防火戸で、直接手で開くことができ、かつ、自動的に閉鎖するもの（以下「常時閉鎖式防火戸」という）とすること。第1-2 次に掲げる基準に適合する構造の防火戸とすること。イ 随時閉鎖することができること。（一部抜粋）が定められておりますので、必ず火災等の非常時に手動にて防火戸の開放保持（ストップ）を解除（防火戸を戸袋から直接手で引き出せる状態）できる保持力で調整してください。調整方法は3ページの『3保持力調整方法』をご参照ください。なお、保持力調整後は必ず防火戸を数回開閉させて確実に防火戸が開放保持（ストップ）することを確認してください。確実に防火戸が開放保持（ストップ）していない場合は、正常作動時以外に開放保持（ストップ）が外れ、人身に対して危害を及ぼす恐れがあります。
2. 防火戸に強い振動や衝撃を与えた場合、または地震の揺れの大きさ等で防火戸の開放保持（ストップ）が外れてしまう場合は、防火戸の開放保持（ストップ）を手動で解除できる範囲内において、本体の保持力を最大に調整することによって開放保持（ストップ）が外れにくくなります。ただし、調整した保持力以上に振動や衝撃等が大きい場合や地震の揺れの大きさによっては、本体の構造上、防火戸の開放保持（ストップ）が外れ、避難経路開口部の防火戸閉鎖が避けられないことがあります。

注意 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者が傷害を負う可能性、または物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

マークは『禁止』、マークは『強制』、マークは『注意』を表しています。

1. 電磁レリーズは屋内仕様です。屋外では使用しないでください。
2. 次の環境下では使用しないでください。周囲温度が-10～40 の範囲を超える場所、湿度が高く結露が生じる恐れのある場所、塵埃の多い場所、強い風の当たる場所、凍結する場所、本体取付部に振動や衝撃が伝わる場所では使用しないでください。
3. 電磁レリーズは防火設備（防火戸）用の自動閉鎖装置です。それ以外の用途（給気口パネル及び非揮発性の開閉装置として）では使用しないでください。
4. 本体を叩いたり、落としたり、リード線を持って吊り下げたりしないでください。
5. ローラー受座は付属の専用ローラー受座以外、使用しないでください。なお、旧型N-64SL型等のローラー受座は溝部の形状等が異なるため、使用できません。
6. L型取付金具は付属の専用L型取付金具以外、使用しないでください。また、ライナーも付属の専用ライナー以外、使用しないでください。
7. 本体、ローラー受座、L型取付金具、化粧板、ライナーの分解や改造、塗装等はしないでください。
8. 本体を垂直に立てて取り付けた状態で使用しないでください。
9. 本体のローラー及びリセット穴等が正面に向けた状態で水平に取り付けて使用しないでください。また、本体のローラーを上に向けた状態で床等に埋込んで使用しないでください。
10. 本体を防火戸等の可動部に取付けて使用しないでください。必ず、上枠等の固定部に取り付けて使用してください。
11. 本体の保持力を調整する際は手回しドライバーを使用し、電動ドライバー及び充電式ドライバー等は使用しないでください。
12. 最小防火戸幅（DW）サイズは、550mm以上になります。550mm未満の場合は使用しないでください。
13. 最大防火戸高さ（DH）サイズは、3000mm以下になります。3000mmを超える場合は使用しないでください。
14. 手動による防火戸の開放保持（ストップ）の解除は、施工時の作動確認及び非常時等の場合に行うことを前提にしていますので、防火戸を防犯用に兼用し、夜間など毎日手動による開放保持（ストップ）の解除を行い、閉鎖する場合等には使用しないでください。
15. 防火折り戸には、ご採用を控えてください。

1. 本体取付板 t 3.2mm、ローラー受座取付板（構造体）t 2.3mmは付属部品ではありません。お手数ですが、戸袋上枠及び防火戸製作時にお取り付けください。
2. 外部電線（別途）用電線管（鋼製） 19mm、ロックナット、絶縁ブッシングは付属部品ではありません。お手数ですが、施工業者様にてご用意ください。
3. 戸袋上枠を必ず設けてください。その際、見付けは25mm以上、見込みは外部電線（別途）とリード線を接続した際の収納スペース確保の為、85mm以上確保してください。
4. 戸袋上枠に本体取付用切欠き穴と本体取付板及び本体取付用タップ穴を設けてください。なお、面落ちや防火戸の厚みによって本体取付用切欠き穴位置及び本体取付用タップ穴位置が変わります。
5. 本体取付用タップ穴を加工する際、基準の本体取付穴寸法244mm（取付穴位置範囲244～245.5mm）になるように加工してください。なお、243mm以下で加工した場合、本体と化粧板を戸袋上枠に取り付けた際、化粧板に歪みが出て防火戸上面に当たることがあります。
6. 戸袋上枠の本体取付部にモルタル等が入らないように400mm以上のトロカパー（別途）を設けてください。その際、トロカパー（別途）に電線管の引込位置に合わせて電線管引込穴（22mm）を加工してください。
7. トロカパー（別途）に外部電線（別途）用電線管（鋼製） 19mm（別途）を設けてください。
8. 防火戸の戸袋納まり時に防火戸と戸袋壁（ボード）間の隙間（取付要領図1のA寸法）が大きいと、防火戸が押された反動で、電磁レリーズの保持が外れ防火戸が閉鎖、または、本体のローラー部がローラー受座を乗り越えて防火戸が閉じにくくなる場合があります。必ず、戸当り等を設けて隙間（取付要領図1のA寸法）を解消してご使用ください。なお、戸当りは付属部品ではありません。お手数ですが、戸袋製作時にお取り付けください。
9. 防火戸の厚みは必ず40mm以上確保してください。また、本体の作動確認スイッチが当たる防火戸上面部は平面になるように仕上げてください。
10. 防火戸のローラー受座取付位置に、必ずローラー受座取付板（構造体）を防火戸内部に接合を設けてください。その際、必ずローラー受座取付板にローラー受座取付用ネジ用逃穴（10mm）2ヶ所の加工を行ってください。
11. 防火戸のローラー受座取付位置に合わせて、ローラー受座取付用切欠き穴（背面・上面）及びL型取付金具取付用タップ穴（背面）を必ず設けてください。
12. 防火戸吊り込み時に戸袋上枠と防火戸との上チリが、基準の3mm（上チリ範囲1～5mm）になるように施工してください。
13. 防火戸の開閉作動範囲内の天井面に点検口または、感知器等の突起物がないようにしてください。
14. 電源電圧は必ず直流24Vを使用してください。また、運動制御器からの外部電線（別途）は、耐熱電線または耐火電線を使用してください。
15. 運動制御器からの外部電線（別途）と本体のリード線を接続する際は、耐熱型閉端接続子（別途）を使用して接続してください。接続した後、外部電線（別途）とリード線を軽く引っ張り、しっかりと確実に接続されていることを確認してください。また、使用していないリード線がある場合は、芯線部分に絶縁テープを巻いて絶縁処理を施してください。
16. 本体内部のスイッチ接点定格（抵抗負荷）は直流30V・5Aです。スイッチ接点定格を超えて使用しないでください。スイッチ接点定格を超えて使用した場合、スイッチが破損して作動不良の原因になります。
17. 戸袋上枠に本体を取り付ける際は、本体のローラーを防火戸に取り付けるローラー受座側に向けて、本体と化粧板を一緒に付属の取付ネジでガタツキや緩みがないようにしっかりと確実に取り付けてください。その際、戸袋上枠と本体の間にリード線を挟み込まないように注意してください。リード線を挟み込んで取り付けた場合、絶縁不良やリード線が断線して作動不良等の原因になることがあります。
18. 本体を手を持ち、レバーが作動確認スイッチ側に移動した状態で指で押さえ、本体のリセット操作を行わないでください。本体の構造上、通常のリセット状態とは異なり、本体のリセットが不完全な状態になるため、防火戸を戸袋に収納した際、本体内部のローラー係止部が外れてローラーが入り込み、本体が作動（電気作動後と同様の状態）したり、電気作動時に作動不良になる場合があります。リセット操作を行う際は、必ず本体を戸袋上枠に取り付けてから行ってください。
19. ローラー受座をL型取付金具に取り付ける際は、ローラー受座の向きに注意し、L型取付金具と平行になるようにして付属の取付ネジでガタツキや緩み等がないようにしっかりと確実に取り付けてください。詳細は、『ローラー受座・L型取付金具取付図』をご参照ください。
20. ローラー受座をL型取付金具に取り付けた後、防火戸のローラー受座取付位置にL型取付金具を付属の取付ネジで、ガタツキや緩み等がないようにしっかりと確実に取り付けてください。その際、戸袋上枠に取り付けた本体とローラー受座が平行になっていることを確認してください。
21. 本体の保持力は、戸袋上枠と防火戸との上チリや防火戸の開閉力等により異なりますので、防火戸が開放保持（ストップ）しない場合や、手動にて防火戸の開放保持（ストップ）を解除できない場合には、本体の保持力調整を行ってください。詳細は、『2保持力調整方法』をご参照ください。
22. 本体の保持力を調整した際、保持力調整ネジが化粧板表面よりローラー受座側に出ないようにしてください。保持力調整ネジが出ている状態で防火戸を閉鎖した場合、ローラー受座取付ネジに当たって保持力調整ネジが破損し、保持力調整ができなくなる場合があります。
23. 本体の保持力を調整しても防火戸が開放保持（ストップ）しない場合や保持力が弱いままの場合は、本体のローラーがローラー受座の溝部に落ち込む位置まで収まっていないことがありますので、ローラー受座取付位置の調整を行ってください。詳細は、『1ローラー受座取付位置調整方法』をご参照ください。
24. 戸袋上枠と防火戸との上チリが5mm以上の場合は、本体の保持力を調整しても防火戸を開放保持（ストップ）しないまたは、開放保持（ストップ）しても保持力が弱いままの状態になりますので、付属のライナー（1枚）をL型取付金具とローラー受座の間に上チリを3～4mm以内にしてから本体の保持力調整を行ってください。
25. 本体のレバーは施工時の保持力調整時に使用してください。戸袋上枠と防火戸との上チリから金尺等を差し込み、レバーを作動確認スイッチ側に移動することでローラーが本体内部に収納され、ローラー受座との保持が外れて防火戸の開放保持（ストップ）を解除できます。
26. 本体のリセット操作ができない場合は、運動制御器からの電気作動信号を受信している可能性がありますので、運動制御器からの電気作動信号を復帰してからリセット操作を行ってください。電気作動信号を受信している状態で無理にリセット操作を行った場合、本体内部の摺動部に影響を与え、保持不良または不動作や誤作動等の原因になります。操作方法の詳細は、『本体の操作方法について』をご参照ください。
27. 2枚折戸の防火戸に使用する場合、ローラー受座は戸先座に取り付けてください。
28. 運動制御器からの外部電線（別途）と本体のリード線を接続した後、コネクタ接続部を抜き差しする場合は、必ず電源がOFFになっていることを確認してください。コネクタ接続部より本体を取り外し、長期間コネクタを使用しない場合は、コネクタ（プラグ側）の接続部に塵埃等が入らないようにテープ等で保護してください。

1. リード線の黄色線（作動確認線）は有電圧線です。電気作動時に作動確認表示を出し、手動解除時は作動確認表示を出しませんので、設計施工の際には使い勝手にご注意ください。

一部表記変更 2015.10.01 仔加

改訂

取り扱い上の注意

警告 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

マークは『禁止』、マークは『強制』、マークは『注意』を表しています。

1. 防火戸を開放保持（ストップ）した状態で人が寄り掛かったり、強い振動・衝撃（荷物運搬用の台車等をぶつける）を与えたりしないでください。防火戸の開放保持（ストップ）が外れてヒンジクローザーによる防火戸の閉鎖が始まり、人身に対して危害を及ぼす恐れがあります。
2. 防火戸を開放保持（ストップ）した状態で脚立を立て掛けたり、防火戸の開閉作動範囲内の床に物品等の障害物を置かないでください。火災等の非常時に避難経路開口部を閉鎖することができず、延焼の拡大を防止できない恐れがあります。

注意 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者が傷害を負う可能性、または物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

マークは『禁止』、マークは『強制』、マークは『注意』を表しています。

1. 本体のローラー、作動確認スイッチ及びローラー受座にオイルやグリス等の潤滑剤を注油しないでください。本体内部の摺動部に影響を与え、保持不良または不動作や誤作動等の原因になります。

1. 防火戸の開放保持（ストップ）を手動で解除する場合は、周囲の安全を確認してから開放保持（ストップ）している以上の力で、防火戸を戸袋より引き出してください。
2. 電気作動後、防火戸を開放保持（ストップ）する際は、必ず本体のリセット操作を行ってから防火戸をゆっくりと戸袋に収納してください。
3. 本体のリセット操作を行う際は、6mm以下のドライバー等の工具を使用してください。

【保守点検について】

1. 6ヶ月に1回、定期点検を実施し、運動制御器からの電気作動信号による本体の作動確認を行ってください。また、本体作動時の作動確認表示を運動制御器の表示部に確認してください。
2. 本体及びローラー受座、L型取付金具の取付ネジの緩みは、誤作動や不動作または保持不良等の原因になりますので、定期点検時にそれぞれの取付ネジの緩みを確認し、緩みがある場合は増し締めもしくは締め直しを行ってください。
3. 定期点検時に防火戸の開放保持（ストップ）状態を確認してください。その際、必ず手動で開放保持（ストップ）を解除できる保持力になっていることを確認してください。手動解除できない場合や弱い力で手動解除できる場合（幸うじて保持されている状態）は、『2保持力調整方法』に従って、本体の保持力を調整してください。

【故障状況とその推定原因及び処置の方法】

状況	原因	処置
防火戸を開放保持（ストップ）できない。	<ul style="list-style-type: none"> 本体の保持力が弱い。 本体のローラーがローラー受座の溝部に収まっていない。 戸袋上枠と防火戸との上チリが5mm以上になっている。 ローラー受座の溝部に異物（塗装用の養生テープ）等が附着している。 本体の保持力調整ネジが破損し、保持力を調整することができない。 電気作動後、本体のリセット操作を行っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 『2保持力調整方法』に従って、本体の保持力を調整してください。 『1ローラー受座取付位置調整方法』に従って、ローラー受座の取付位置を調整してください。 ローラー受座とL型取付金具の間に付属のライナー（1枚）を入れ、上チリを3～4mmにしてください。 ローラー受座の溝部に附着している異物等を取り除いてください。 本体の保持力調整ネジを交換してください。保持力調整ネジは、別途ご用意ください。 【本体の操作方法について】に従って、リセット操作を行ってください。
手動による防火戸の開放保持（ストップ）が解除できない。	<ul style="list-style-type: none"> 本体の保持力が強い。 	<ul style="list-style-type: none"> 電気作動または本体のレバーで開放保持（ストップ）の解除を行ってから『2保持力調整方法』に従って、本体の保持力を調整してください。
電気作動による防火戸の開放保持（ストップ）が解除できない。	<ul style="list-style-type: none"> 本体に電圧が印加されていない。 本体のコネクタ接続部が外れている。 外部電線（別途）と本体のリード線が接続されていない。 外部電線（別途）と本体のリード線との接続が間違っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動制御器からの電圧を確認してください。（電源電圧：直流24V） コネクタ接続部の外れを確認し、接続してください。 外部電線（別途）と本体のリード線を確認し、接続してください。
本体のリセット操作ができない。	<ul style="list-style-type: none"> 運動制御器からの電気作動信号を本体が受信している。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動制御器からの電気作動信号を復帰してください。

N-64D型電磁レリーズ 取付要領図5

尺度	1/2	承認	三枝	検図	清水	設計	市川
			2012.06.11		2012.06.11		2012.06.11

ニツケイ株式会社 図番 AR-31609-A